




公共事業事後評価調書

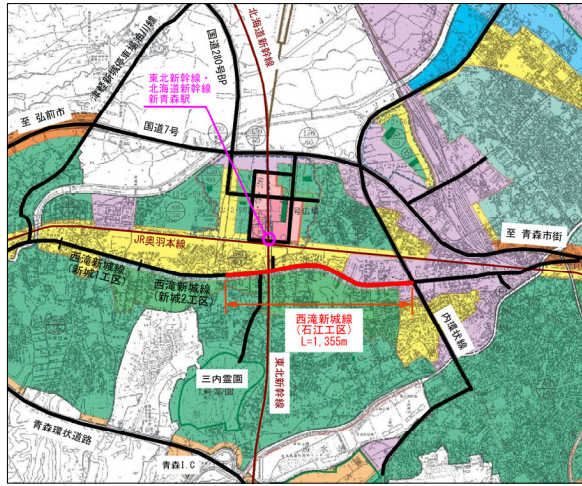
整理番号	R7-3
------	------

担当部課室名	県土整備部 都市計画課	電話番号	017 - 734 - 9682
		E-mail	toshikei@pref.aomori.lg.jp

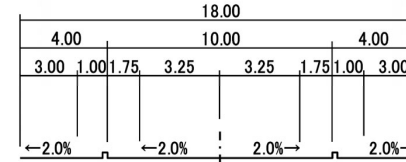
1 事業概要

事業種別	街路事業	事業名	道路改築事業
事業主体	青森県	管理主体	青森県
地区名等	3・4・2号西滝新城線（石江工区）	市町村名	青森市
事業方法	○ 国庫補助    ● 交付金    ● 県単独		
財源・負担区分	● 国    47 %    ● 県    38 %    ● 市町村    15 %    ○ その他    %		
事業の背景・必要性	<p>本路線は、青森市の中心市街地と市西部地域をアクセスする幹線道路である。当該路線は、旧国道7号ということもあり、従来から交通量が多く、特に朝夕の通勤・通学ラッシュ時には市内でも有数の慢性的な交通渋滞箇所となっている。さらに、近隣には小中学校・高等学校等の文教施設があり主要な通学路となっているが、歩道は非常に狭い状況にあった。</p> <p>市西部地区は住宅開発や東北新幹線新青森駅の開業に伴い、一層の交通渋滞が予想される地域であったことから、東北新幹線新青森駅へのアクセス道路として、交通渋滞の解消・交通流道の円滑化を図り、歩行者等を含めた交通の安全確保もあわせた道路網整備を行うことを目的として、平成19年度から本事業を実施した。</p>		
	  		
主な事業内容 (事業量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画延長 L=1,355m</li> <li>・ 計画幅員 W=18.0m (片側1車線、両側歩道)</li> </ul>		

《事業概要図》



標準横断面図



想定した  
事業効果

《金銭価値化が可能な効果》

- ① 走行時間短縮
- ② 走行経費減少
- ③ 交通事故減少
- ④ 冬期の走行速度向上

《その他の効果》

- ① 道路拡幅による走行性の向上
- ② 歩道拡幅による歩行者等の安全確保
- ③ アクセス道路としての機能向上
- ④ 事業実施による地域への波及効果

事業の実施経過

《事業着手》 平成19年度    《用地着手》 平成20年度    《工事着手》 平成22年度    《事業完了》 令和2年度

公共事業評価の実施時期	事前評価時 (H18年) 〔当初計画時〕	再評価時 (H29年)	事後評価時 (R7年) 〔最終実績〕	
事業期間 (着手～完了)	H19 ~ H25	H19 ~ H31	H19 ~ R2	
総事業費	3,000 百万円	4,282 百万円	4,263 百万円	
計画変更の実施時期	第1回変更 (H21年)	第2回変更 (H25年)	第3回変更 (H28年)	第4回変更 (R1年)
事業期間 (着手～完了)	H19 ~ H25	H19 ~ H29	H19 ~ H31	H19 ~ R2
総事業費	3,180 百万円	3,838 百万円	4,282 百万円	4,299 百万円

特記事項

【計画変更】

- ・ H29年度に再評価実施。対応方針は「継続」、個別付帯意見等はなし。
- ・ 事業費は、主に電線共同溝整備費用が増加、その他、用地補償費等により増額となった。

## 2 事業完了後の状況

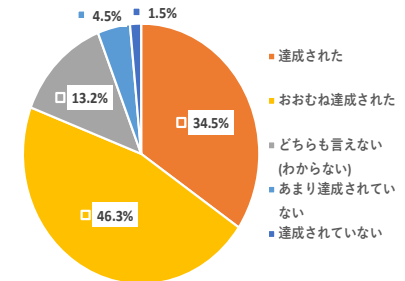
<p>社会経済情勢等の変化</p>	<p>3・4・2号西滝新城線の整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度 事業完了</li> <li>・令和2年3月 3・4・2号西滝新城線（新城1工区）事業着手</li> <li>・令和5年3月 3・4・2号西滝新城線（新城2工区）事業着手</li> </ul>												
<p>費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費は、主に電線共同溝整備費用が増加、その他、用地補償費等により増額となった。</li> <li>・車種別の時間価値原単位、走行経費原単位を変更。（費用便益マニュアル(国土交通省)のR7.8改訂）</li> <li>・R2.3に改訂した地域修正係数を適用</li> <li>・維持管理費を変更。（R2.6改訂）</li> </ul>												
<p>事業効果の発現状況</p>	<p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <p>①走行時間短縮便益:4,167百万円 ②走行経費減少便益:30百万円 ③交通事故減少便益:-106百万円 ④冬期の走行速度向上便益:2,154百万円</p> <p>《その他の効果》</p> <p>【必要度】（アンケート）</p> <p>設問：地域によってこの事業は必要であったと思いますか？（住民+企業関係者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「必要であった」「おおむね必要であった」の割合は87%となり、事業の必要性を認める結果となった。</li> <li>・必要である理由として、「道路や歩道の拡幅によって交通の流れがスムーズになり車・歩行者の安全性が高まった」、「冬場や通勤・通学時の利便性が大きく向上した」などの意見があげられた。</li> </ul> <div data-bbox="1646 853 2027 1125"> <table border="1"> <caption>アンケート結果の割合</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要であった</td> <td>66.3%</td> </tr> <tr> <td>おおむね必要であった</td> <td>20.9%</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない(わからない)</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり必要ではなかった</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td>必要ではなかった</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="465 1152 1803 1455"> </div>	回答内容	割合	必要であった	66.3%	おおむね必要であった	20.9%	どちらとも言えない(わからない)	11.2%	あまり必要ではなかった	1.4%	必要ではなかった	0.2%
回答内容	割合												
必要であった	66.3%												
おおむね必要であった	20.9%												
どちらとも言えない(わからない)	11.2%												
あまり必要ではなかった	1.4%												
必要ではなかった	0.2%												

事業効果の  
発現状況

【達成度】（アンケート）

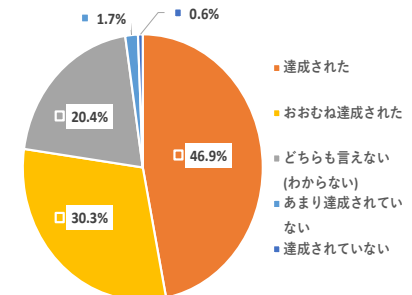
設問：道路が広くなったことで、走りやすくなりましたか？（住民+企業関係者）

- ・「達成された」「おおむね達成された」の割合は80%となり、事業の達成度を認める結果となった。
- ・達成された理由として、「道路整備によって車道と歩道の分離が進み安全性が向上した」「渋滞の緩和や右折車線の設置・信号改善・冬季でも他地域より走りやすい」などの意見があげられた。



設問：歩道が広くなったことで、歩きやすくなりましたか？（住民+企業関係者）

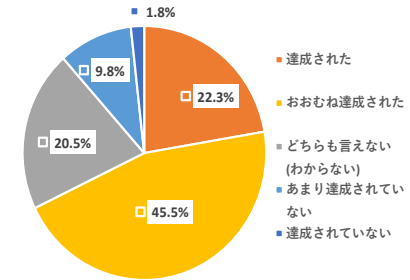
- ・「達成された」「おおむね達成された」の割合は77%となり、事業の達成度を認める結果となった。
- ・達成された理由として、「歩道が広くなり視認性・見通しも良好になったことで、歩行者の安全性が向上した」、「通学児童や通勤者、自転車の利用者にとって安心して通行できるようになった」などの意見があげられた。



事業効果の  
発現状況

設問：道路は新青森駅へのアクセス道路として役立っていると思いますか？（企業関係者のみ）

- ・「達成された」「おおむね達成された」の割合は67%となり、事業の達成度を認める結果となった。
- ・達成された理由として、「渋滞緩和の効果を実感した」「アクセスが良くなり大回りしなくてもよくなった」などの意見があげられた。

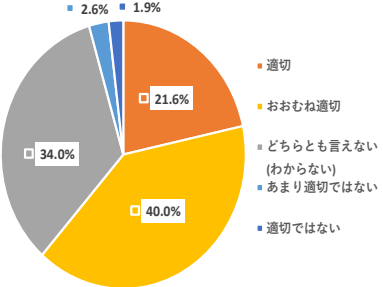


《参考（費用便益比）》

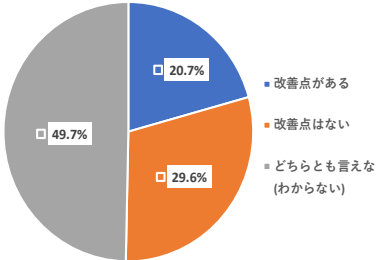
	事前評価時（H18年）	再評価時（H29年）	事後評価時（R7年）
総費用（C）	2,283 百万円	4,905 百万円	7,812 百万円
総便益（B）	3,186 百万円	5,891 百万円	6,245 百万円
費用便益比（B/C）	1.40	1.20	0.80
地域修正係数（φ）	—	1.429	1.404
修正費用便益比（B' /C）	1.40	1.72	1.12

《特記事項》

総費用（C）の増加要因としては、単純な事業費は再評価時とほとんど変化がないものの、評価基準年が後年にスライドすることにより、過去への社会的割引率の割引率が大きくなること、最新のGDPデフレーター指数が近年の物価高を反映して高くなっていることから、現在価値化によって総費用（C）が増加しています。

<p>事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>【管理状況】（アンケート）</p> <p><u>設問：この事業で整備した道路は青森県が管理しておりますが、管理は適切に行われていると思いますか？</u> <u>（住民＋企業関係者）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「適切」「おおむね適切」の割合が61%となり、管理は適切に行われていると回答している。</li> <li>・適切とされた理由として、「道路や歩道が整備され管理も行き届いている」「除雪や保全が適切に行われている」「全体的に快適である」などの意見があげられた。</li> </ul>  <table border="1"> <caption>管理状況の割合</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適切</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>おおむね適切</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない(わからない)</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>あまり適切ではない</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>適切ではない</td> <td>1.9%</td> </tr> </tbody> </table>	回答内容	割合	適切	21.6%	おおむね適切	40.0%	どちらとも言えない(わからない)	34.0%	あまり適切ではない	2.6%	適切ではない	1.9%
回答内容	割合												
適切	21.6%												
おおむね適切	40.0%												
どちらとも言えない(わからない)	34.0%												
あまり適切ではない	2.6%												
適切ではない	1.9%												
<p>事業実施による環境の変化</p>	<p>《「環境影響への配慮」の効果発現状況（特に留意した配慮内容がある場合）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下埋設物の調査を実施し、ライフラインの破損防止に努めた。</li> <li>・低騒音、低振動及び排出ガス等周辺環境へ配慮した建設機械の使用に努めた。</li> </ul> <p>《その他の環境の変化》</p> <p>【環境変化】（アンケート）</p> <p><u>設問：事業の実施により、環境の状況は事業実施前と比べてどう変化しましたと思いますか？</u> <u>（住民＋企業関係者）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歩道や道路が広くなり見通しや景観が改善された」、「新青森駅周辺の利便性向上、観光客の増加などによって、地域活性化を実感している」などの意見があげられた。</li> </ul>												

### 3 まとめ

<p>改善措置の 必要性</p>	<p>【改善点】（アンケート）</p> <p><u>設問：この事業で行った工事や完成した道路について、改善した方がよいと思う点がありますか？</u> <u>（住民＋企業関係者）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「改善点ある」の割合が20%、「改善点ない」の割合が29%であった。</li> <li>・改善点がある理由としては、「渋滞が解消されていない」との意見があった。このことから、石江工区に隣接する新城1工区及び新城2工区の事業について円滑な事業遂行に努めていく必要がある。</li> </ul> 
<p>再度の 事後評価の 必要性</p>	<p>「事業効果の発現状況」にあるとおり、事業目的は達成されているものと判断できるため、再度の事後評価は必要ないものとする。</p>
<p>今後に向けた 留意点</p>	<p>《同種事業の計画・調査の在り方》</p> <p>当該事業においては用地買収の難航により事業期間が延伸していることから、計画にあたっては沿線住民との合意形成の方法などを考慮したうえで早期に事業効果が発現できる事業計画とする必要があると考える。</p> <p>《事業評価手法の見直し》</p> <p>本事業は、国土交通省による「費用便益分析マニュアル」、県土整備部道路課による「道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱」に基づき、適切に便益・費用を算出し評価していることから事業評価手法の見直しは必要ないものとする。</p> <p>《同種事業の内容・手法等の在り方》</p> <p>アンケート結果で、隣接する区間の早期整備を求める意見が多かったことから、路線全体で整備効果が発揮できるように、計画的に道路整備を進めていく必要がある。</p>
<p>特記事項</p>	

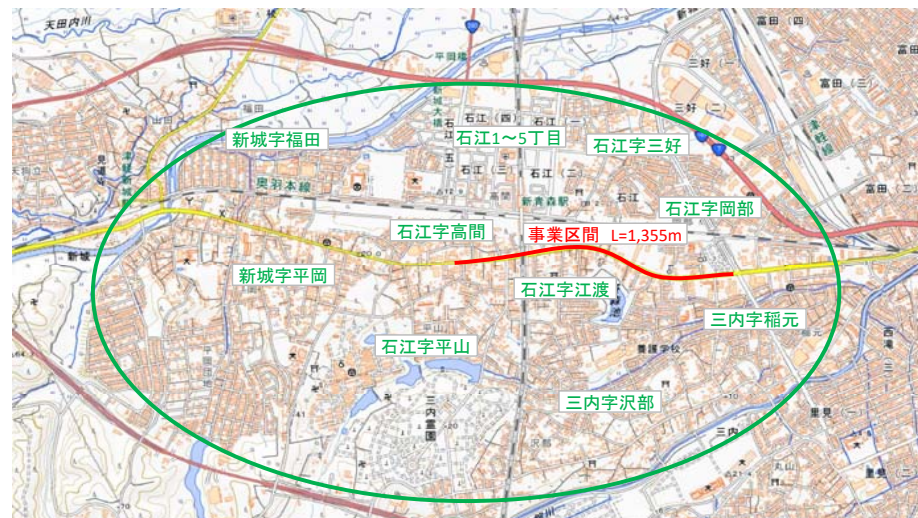
(様式 4 添付資料)

## 事後評価アンケート結果

アンケート対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該事業区間の沿線付近地域に居住する一般住民</li> <li>・ 当該事業区間を利用すると想定される企業関係者（タクシー会社・運送業者）</li> </ul>	
配布方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般住民：郵便による配布</li> <li>・ 企業関係者：直接訪問による配布</li> </ul>	(配付部数) 一般住民 : 1,250部 企業関係者 : 250部 合計 : 1,500部
回収方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般住民 : 返信用封筒による回収及びWEB</li> <li>・ 企業関係者 : 返信用封筒による回収及びWEB</li> </ul>	(回収部数) 一般住民 : 383部 企業関係者 : 127部 合計 : 510部 (郵送411部+WEB99部)
回収率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般住民 : 郵送 23.7% (296/1250)、WEB回答 7.0% (87/1250)、合計 30.6% (383/1250)</li> <li>・ 企業関係者 : 郵送 46.0% (115/250)、WEB回答 4.8% (12/250)、合計 50.8% (127/250)</li> <li>・ 合計 : 郵送 27.4% (411/1500)、WEB回答 6.6% (99/1500)、合計 34.0% (510/1500)</li> </ul>	

### アンケート結果

◆一般住民アンケート調査対象範囲図

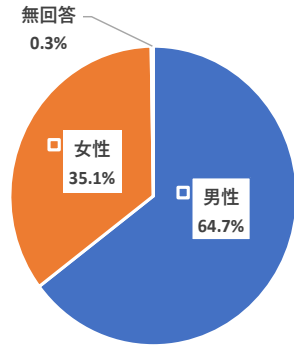


# アンケート結果

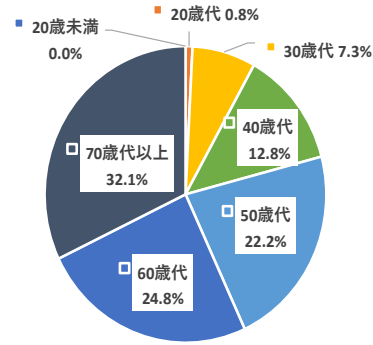
※回答数の集計であり、無記入の場合は集計対象外

## 【一般住民のみ】

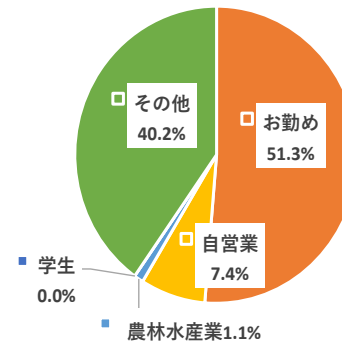
問 性別 回答数：382



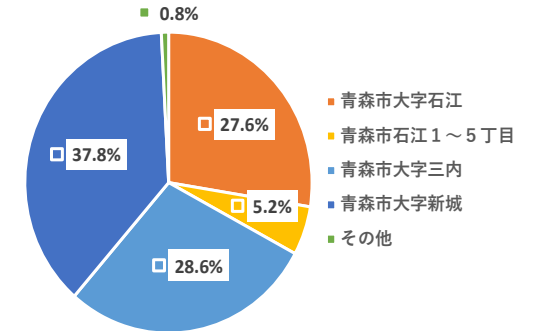
問 年齢層 回答数：383



問 職業 回答数：378



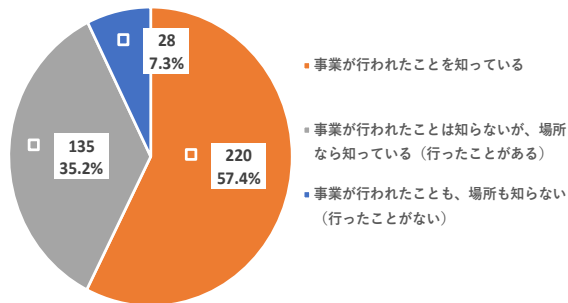
問 お住まい 回答数：381



## 【一般住民】

問 事業の認知度

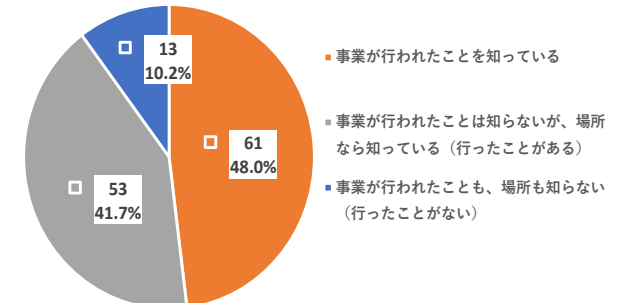
回答数：383



## 【企業関係者】

問 事業の認知度

回答数：127

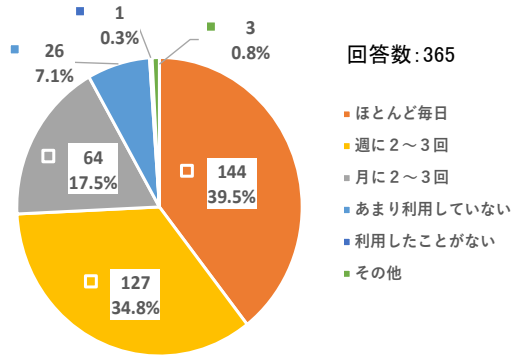


# アンケート結果

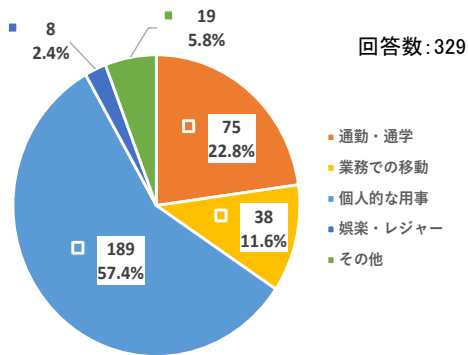
※回答数の集計であり、無記入の場合は集計対象外

## 【一般住民】

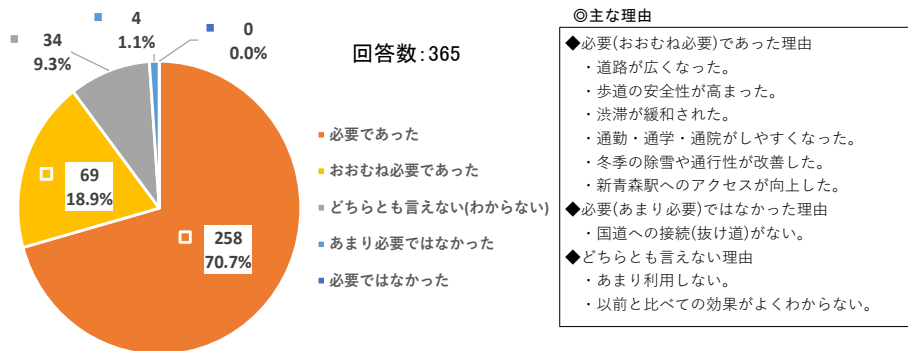
### 問 道路の利用回数



### 問 道路の利用目的

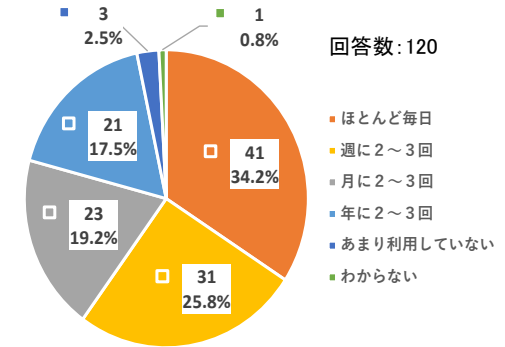


### 問 事業の必要度

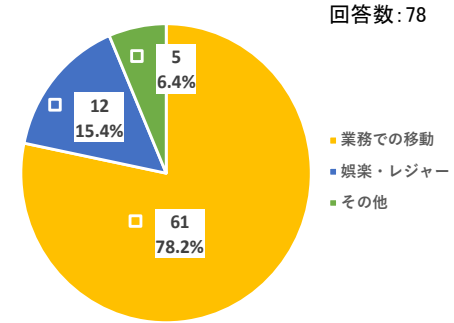


## 【企業関係者】

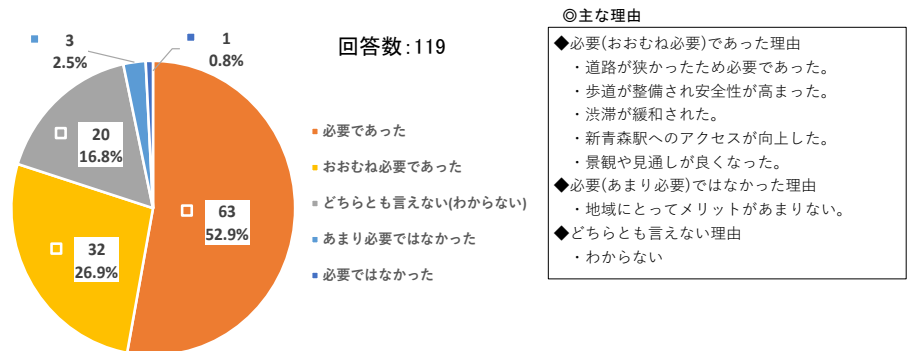
### 問 道路の利用回数



### 問 道路の利用目的



### 問 事業の必要度

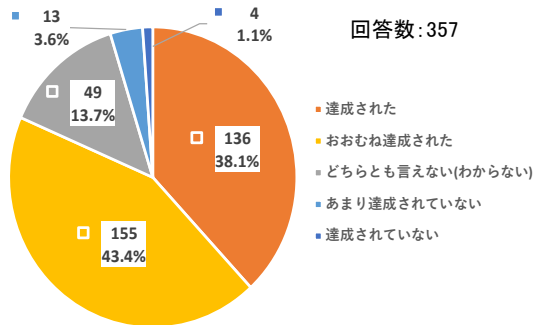


# アンケート結果

※回答数の集計であり、無記入の場合は集計対象外

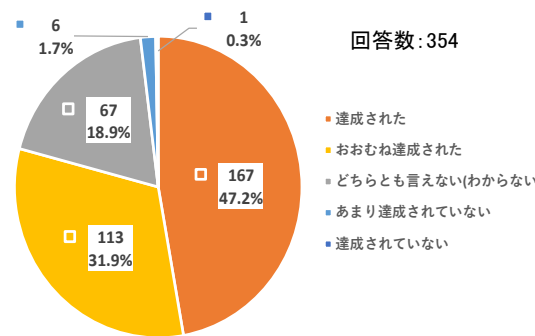
## 【一般住民】

問 事業の達成度（道路拡幅による走りやすさ）



- ◎主な理由
- ◆達成(おおむね達成)された理由
    - ・渋滞が緩和された。
    - ・車道と歩道が分離し安全性が向上した。
    - ・右折車線、バスレーンで流れがスムーズ。
    - ・走りやすく、冬でも通行しやすい。
    - ・見通しがよくなった。
  - ◆達成(あまり達成)されていない理由
    - ・渋滞が継続している。
    - ・整備区間が短い。
  - ◆どちらとも言えない理由
    - ・以前の状況がわからない
    - ・あまり利用しない。

問 事業の達成度（歩道拡幅による歩きやすさ）



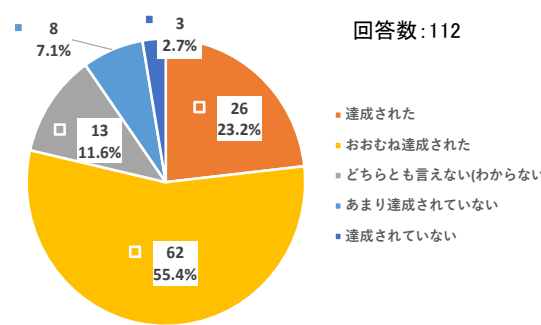
- ◎主な理由
- ◆達成(おおむね達成)された理由
    - ・歩道が広く歩きやすくなった。
    - ・自転車とのすれ違いが容易になった。
    - ・見通しがよくなった。
    - ・車歩分離で歩行者の安全性が確保された。
    - ・子供の通学時の心配が減った。
  - ◆達成(あまり達成)されていない理由
    - ・歩道の除雪が不十分である。
    - ・歩道は広いが冬は狭い。
  - ◆どちらとも言えない理由
    - ・あまり歩道を利用することがない。
    - ・広がったのは一部区間のみ。

問 事業の達成度（新青森駅へのアクセス道路）

調査なし

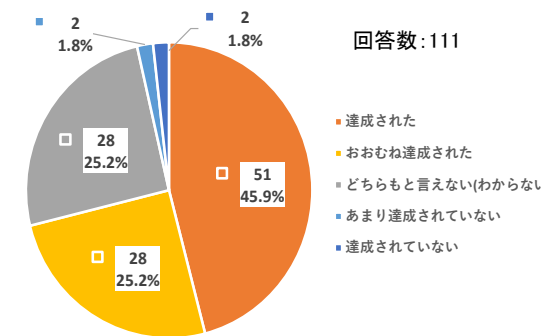
## 【企業関係者】

問 事業の達成度（道路拡幅による走りやすさ）



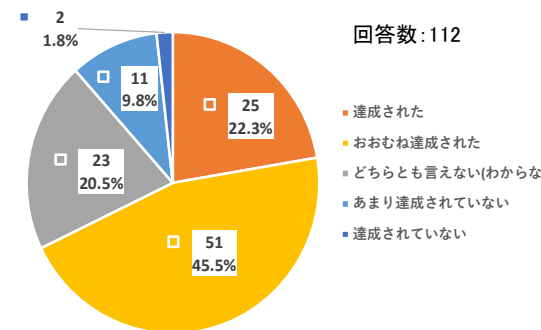
- ◎主な理由
- ◆達成(おおむね達成)された理由
    - ・渋滞が緩和された。
    - ・道路が広くなり安全性が向上した。
    - ・交通の円滑化し、走りやすくなった。
    - ・右折しやすくなった。
    - ・視界がよくなった。
  - ◆達成(あまり達成)されていない理由
    - ・部分的整備で渋滞や危険が残る。
    - ・道路の拡幅が不十分。
  - ◆どちらとも言えない理由
    - ・わからない

問 事業の達成度（歩道拡幅による歩きやすさ）



- ◎主な理由
- ◆達成(おおむね達成)された理由
    - ・安全性が向上した。
    - ・歩きやすい。
    - ・人や自転車等のすれ違いが楽になった。
    - ・工事前より広く、きれいになった。
  - ◆達成(あまり達成)されていない理由
    - ・歩道が狭い区間がある。
  - ◆どちらとも言えない理由
    - ・普段車なのでわからない。

問 事業の達成度（新青森駅へのアクセス道路）



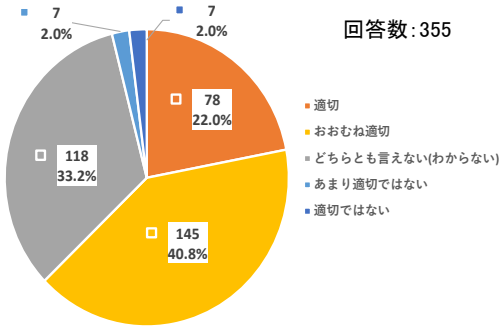
- ◎主な理由
- ◆達成(おおむね達成)された理由
    - ・渋滞が緩和された。
    - ・大回りが不要、国道7号と併用できる。
    - ・アクセスが良くなった。
    - ・以前は新駅までの道が狭かったから。
  - ◆達成(あまり達成)されていない理由
    - ・バスが駅に右折しやすくなっただけ。
    - ・踏切があるから
  - ◆どちらとも言えない理由
    - ・国道7号を通るから。

# アンケート結果

※回答数の集計であり、無記入の場合は集計対象外

## 【一般住民】

問 当該道路の管理状況

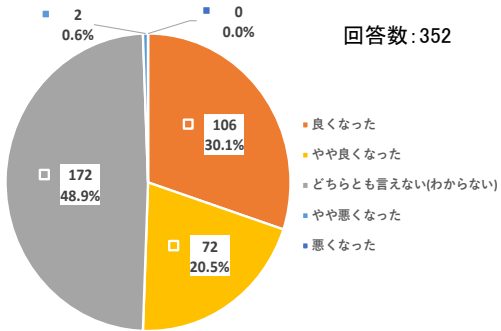


回答数: 355

◎主な理由

- ◆適切(おおむね適切)である理由
  - ・整備されている。
  - ・管理が良い。
  - ・除雪されている。
  - ・通行がしやすい。
  - ・問題は感じていない。
- ◆適切(あまり適切)ではない理由
  - ・歩道の除雪が不十分である。
  - ・白線が消えている。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・管理の状況がわからない。
  - ・あまり利用しない。

問 事業実施による環境変化(自然・生活・文化的環境)

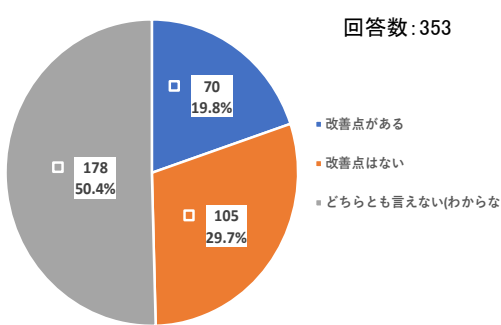


回答数: 352

◎主な理由

- ◆良く(やや良く)なった理由
  - ・見通しや景観が改善された。
  - ・利便性や安全性が向上した。
  - ・観光客が増加している。
  - ・店舗が増えて地域活性化された。
  - ・事故や渋滞が緩和された。
- ◆悪く(やや悪く)なった理由
  - ・交通量増加による騒音や振動が悪化。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・特に環境の変化は感じない。
  - ・住んでいないのでわからない。

問 事業による工事や完成道路の改善点



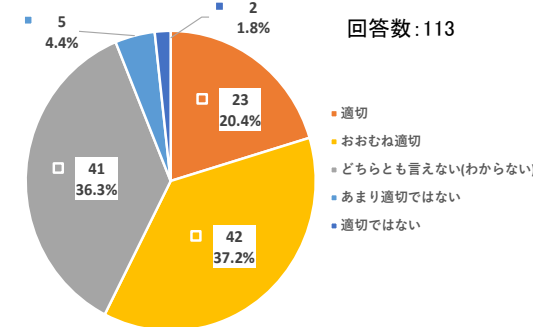
回答数: 353

◎主な理由

- ◆改善点がある理由
  - ・通勤通学時の信号による渋滞が発生。
  - ・冬道路における除排雪の対応強化。
  - ・整備期間が長すぎる。
  - ・左右の小路から出入りにくい。
- ◆改善点はない理由
  - ・十分綺麗である。
  - ・広くて走りやすい。
  - ・完成した道路に満足している。
  - ・改善点はなく、現状でよい。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・利用の頻度が少ない。
  - ・石江地区が広がっただけ。

## 【企業関係者】

問 当該道路の管理状況

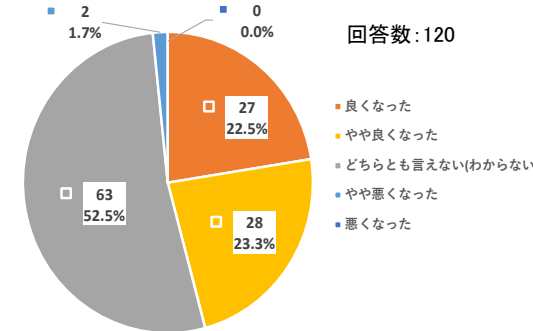


回答数: 113

◎主な理由

- ◆適切(おおむね適切)である理由
  - ・舗装状態がよい。
  - ・不便もなく問題ない。
  - ・きれいに保たれている。
- ◆適切(あまり適切)ではない理由
  - ・除雪が間に合っていない。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・たまにしか通らないのでわからない。
  - ・管理とは何かわからない。

問 事業実施による環境変化(自然・生活・文化的環境)

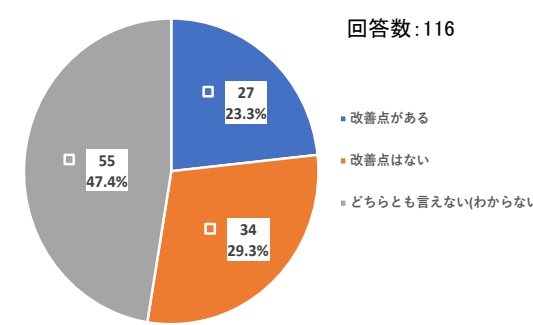


回答数: 120

◎主な理由

- ◆良く(やや良く)なった理由
  - ・全体的に綺麗になった。
  - ・まちの景観がよくなった。
  - ・駅へのアクセスが良くなった。
- ◆悪く(やや悪く)なった理由
  - ・旧奥羽街道の面影がない。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・道路は広がったが騒音が増加した。
  - ・住んでいないのでわからない。

問 事業による工事や完成道路の改善点



回答数: 116

◎主な理由

- ◆改善点がある理由
  - ・信号による渋滞が発生している。
  - ・一部改善ではなく全体整備を希望。
  - ・除排雪対策をしてほしい。
  - ・白線の消え、表示が不十分である。
- ◆改善点はない理由
  - ・通り抜けれるようになった。
  - ・特に問題はない。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・たまにしか通らないのでわからない。
  - ・地域住民の観点だと何とも言えない。

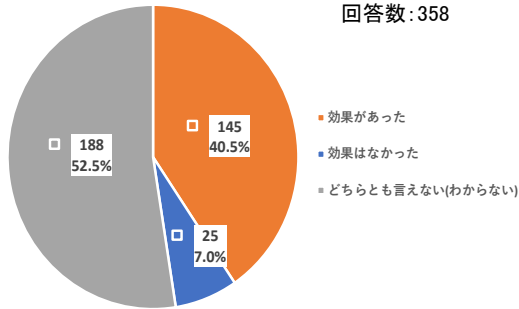
# アンケート結果

※回答数の集計であり、無記入の場合は集計対象外

## 【一般住民】

### 問 その他効果（事業目的以外の効果）

回答数: 358



#### ◎主な理由

- ◆効果があった理由
  - ・駅や観光地等へのアクセスが向上した。
  - ・利便性・安全性が向上した。
  - ・店舗出店により地域が活性化した。
  - ・歩道整備により歩きやすくなった。
- ◆効果はなかった理由
  - ・人が増えたわけではない活気はない。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・特になし。
  - ・地域が利便になればそれでいい。

### 問 その他の意見（当該事業）

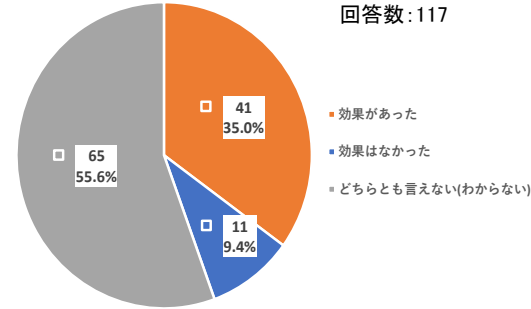
#### 記述内容（抜粋）

- ・子どもが安心して歩ける様になったと思う。
- ・地域住民が安心して道路を利用できるとともに、沿線サービス施設等も事業展開し易い他、地域の活性化を促進することにも寄与すると思う。
- ・とりあえず整備していただいたことには感謝です。
- ・新城駅付近まで延長して欲しい。特に西部市民センター前は狭く危険。
- ・まだ未整備区間が多い上、整備期間が長すぎる。
- ・工事期間が長すぎる。うろろしている人が多く、無駄な経費がかかりすぎている。冬期間の工事は止めた方がいい。
- ・景観に対する配慮が不十分です。
- ・災害、天災に対応できる道路をめざしてほしいです。
- ・今回の石江工区だけではなく、新青森駅から新城方面の整備も進めてほしい。(井上整形から西方面の歩道が狭い)
- ・生活道路でもあることから公共事業で促進してほしい。
- ・信号の間隔が近すぎるような気がする青森中心街へ進む渋滞をなんとか改善してほしい。
- ・冬季の除排雪だけでなく歩道も広がったので歩道の排雪を行い歩行者が歩きやすくしてほしい。
- ・道路については、反対しません。積極的にお願いします。
- ・新城駅方面への工事も早くすすめて頂きたい。
- ・前より車道が混雑した気がする。駅周辺の南北に通る道が欲しい。
- ・除雪を引き続きこまめに行ってほしい。
- ・冬の明舗装工事が遅く道路の凹凸が多い。
- ・延伸部分についても早い完了を希望します。
- ・非常に走りやすくなったと思います。(ちょっと信号の数は多いが)

## 【企業関係者】

### 問 その他効果（事業目的以外の効果）

回答数: 117



#### ◎主な理由

- ◆効果があった理由
  - ・店舗が増え地域活性化に役立っている。
  - ・多方面へのアクセスが向上した。
  - ・通勤通学路としてよくなった。
- ◆効果はなかった理由
  - ・観光地に行くため通る必要がない。
- ◆どちらとも言えない理由
  - ・住んでないためわからない。
  - ・区間が短く判断できない。

### 問 その他の意見（当該事業）

#### 記述内容（抜粋）

- ・車も歩行者も安全でスムーズに利用出来て感謝してます。
- ・渋滞がやや良くなった。
- ・歩道が広がったのはとても良いが、踏切が近い為道路の渋滞は今でも起こっている。
- ・駅周辺だけ広くしても、そこにつながるアクセス道路がせまい。
- ・旧道そのものを良くしてほしい。新城方面はあぶないですよ。
- ・冬対策をもうすこし考えてほしい。
- ・大通りだけ広くしても、そこに付随している道路も改善しなければ「良かった」とは思えない。新青森側と旧7号をもっと快適に通行できるアクセス道路が必要だと思う。
- ・信号を増やしてほしい。早朝のスピード出しすぎが目立つ。
- ・マツダモータースクールの交差点市内に向かって左折ゾーンがほしい。
- ・この地区は三内丸山遺跡、美術館(県立)、運動公園などの施設が多いがその表示案内(看板)が少ない。英語、中国語で表示した看板があればよいと思う。(タクシー運転手の立場から)
- ・道路は広がったが車線が増えたわけではないため、交通量などは変わらないように思える。
- ・とにかく、43億もの税金を使うのであれば、もっと除雪のいらない地域作りとかを、毎年の除雪費用も加え、恒久的なことを考えるべき。(観光客に見せるべきは道路ではなく豪雪地域ならではの快適性を工夫している様である。)
- ・この工間だけでなく、子ども達の通学に危険な箇所がまだまだあると思いますので考えて頂けると良いと思います。

## アンケート結果

### 【一般住民】

#### 問 公共事業全般への意見（まとめ）

- 除雪・排雪対策
  - ・除雪が来ない、歩道が除雪されない、不公平、冬期の道路対策が不十分など。特に生活道路や行き止まり、坂道での困難が多い。
- 道路の狭さ・拡幅
  - ・特に通学路や新城地区での拡幅要望が多く、小中学生や高齢者の安全確保が目的。車と歩行者のすれ違いに危険を感じる。
- 道路の凸凹・舗装不良
  - ・アスファルトの剥がれ、穴、段差などによる乗り心地の悪化や事故リスクを指摘。特定の地点名指して要望も多数。
- 歩道・通学路の整備
  - ・歩道がなく車道を歩く状況、特に小学生や高齢者にとって危険。冬はさらに深刻。
- 白線・標示の消え
  - ・横断歩道や車線の白線が消えかかっているため再塗装してほしいとの意見多数。特に春や夜道の見えにくさが課題。
- 公共事業の進捗・効率
  - ・工期が長い、整備完了予定が分からない、予算の使い方に不満という意見。スピード感や住民目線の説明が求められる。
- 除雪時の不公平・対応差
  - ・同じ税金を払っているのに「自分の家の前は除雪されない」など、地域間での対応格差への不満。
- 地域活性化・観光整備
  - ・新青森駅周辺の開発、公園の整備、商業施設の誘致など、利便性や景観改善を望む意見。
- 除雪の技術・作業員の質
  - ・オペレーターの腕の差、寄せ雪の置き方など技術面への不満と改善提案。
- 雪対策（融雪溝など）
  - ・融雪溝、ロードヒーターなどの導入要望。特に歩道や生活道路向け。
- バス・交通アクセス改善
  - ・バス停の整備、新病院へのアクセス、免許返納者の移動支援などの意見あり。
- 雑草・街路樹の管理
  - ・道路沿いや公園の雑草、街路樹が放置されていて見苦しいという指摘。
- 情報公開・説明不足
  - ・税金の使い道、整備の効果や目的が住民に伝わっていないとの不満。アンケートの結果公開を求める意見。
- 若者・移住定住対策
  - ・豪雪や不便な交通環境が若者流出の原因になると危機感を抱く意見。
- 駐車場不足
  - ・新青森駅周辺の駐車場が足りない。利用者が困っているとの意見。

### 【企業関係者】

#### 問 公共事業全般への意見（まとめ）

- 除雪・排雪対策
  - ・大雪時の道路・歩道の除排雪が不十分で、歩行者や利用者の安全に支障。常に排雪が必要との意見。
- 道路の狭さ・拡幅
  - ・岡町通りや新城方面の通りが狭く、特に冬場は危険との意見。歩道・自転車道との分離など安全な設計を求める。
- 道路の凸凹・舗装不良
  - ・春先のガタガタ道、穴ボコ、段差などの補修要望が多数。市道・県道の舗装整備の遅れを指摘。
- 工期の長期化
  - ・道路工事の期間が長すぎ、生活や通行に支障をきたすとの意見。工期の短縮や工程の工夫を求める。
- 融雪施設・歩道の雪対策
  - ・融雪溝や融雪歩道の整備を求める声。雪道での歩行が困難という切実な意見あり。
- 外国人向け案内・観光配慮
  - ・世界遺産周辺に外国人向けの施設案内や標識が不足しているとの指摘。観光客が安心できる環境づくりを要望。
- 工事の整備完了後の配慮
  - ・歩道や施設が使われず雑草だらけ、見栄えが悪くなるとの意見。維持管理にも配慮してほしいとの意見。
- トイレ等施設の不足
  - ・奥入瀬観光ルートでのトイレ不足により観光客が困っている。女性利用者への配慮を要望。
- 事業の優先順位・費用対効果
  - ・高額な事業費への懸念や、生活道路の補修を優先すべきとの意見。使い道を再考してほしいという意見。
- 実施時期への配慮
  - ・冬前に事業を完了させてほしいという要望。生活や除雪に支障が出ないような工程配慮を求める。

## 費用対効果分析説明資料

## 【費用対効果の算定内容】

## 1. 費用対効果の算定根拠

算定の考え方は、「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針」（令和6年9月 国土交通省策定）による。  
また、具体の算定手法については、「費用便益分析マニュアル」（令和7年8月 国土交通省 道路局 都市局）及び「道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱」（令和2年3月 青森県 県土整備部 道路課）による。

本マニュアルにおいては、社会的余剰を便益（B）とし、整備に係る総費用及び維持管理費を現在価値化に割り引いたものを費用（C）として評価するものとした。

## 2. 算定の前提条件

(1) 評価基準年度：令和7年度、 (2) 検討年数：50年

(3) 費用及び便益の現在価値：投資額、評価基準年内に発生する年間便益を、現在価値化（社会的割引率4%）している。

## 【前回評価時と事後評価時の費用便益比】

区分	主な項目	前回評価時 ( H29 年 )		事後評価時 ( R7 年 )	
	算定基準年	H29 年		R7 年	
費用 項目 (C)	(1) 事業費	4,824	百万円	7,650	百万円
	(2) 維持管理費	81	百万円	162	百万円
	(3)		百万円		百万円
	(4)		百万円		百万円
	(5)		百万円		百万円
		総費用 (C)	4,905	百万円	7,812
	算定基準年	H29 年		R7 年	
便益 項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	4,101	百万円	4,167	百万円
	(2) 走行経費減少便益	417	百万円	30	百万円
	(3) 交通事故減少便益	28	百万円	-106	百万円
	(4) 冬期便益	1,345	百万円	2,154	百万円
	(5)		百万円		百万円
		総便益 (B)	5,891	百万円	6,245
	費用便益比 (B/C)	1.20		0.80	
	地域修正係数 (φ)	1.429		1.404	
	修正費用便益比 (B' / C)	1.72		1.12	

## 【費用対効果分析の結果】

費用便益比 (B / C) = 0.80

修正費用便益比 (B' / C) = 1.12